

一般国道406号は、長野県大町市から群馬県高崎市に至る延長約134キロメートルの主要幹線道路です。

長野市戸隠・鬼無里地区と長野市街地を連絡する生活道路としての機能のほか、奥裾花自然園や妙高戸隠連山国立公園への観光ルートとしても利用されています。また、災害時の避難・救助をはじめ、物資供給などの応急活動や緊急車両の通行を確保する路線として、第二次緊急輸送道路に指定された重要な道路です。

しかしながら、幅員が狭くカーブが連続し車両のすれ違いが困難な箇所があり、円滑な交通に支障をきたしています。

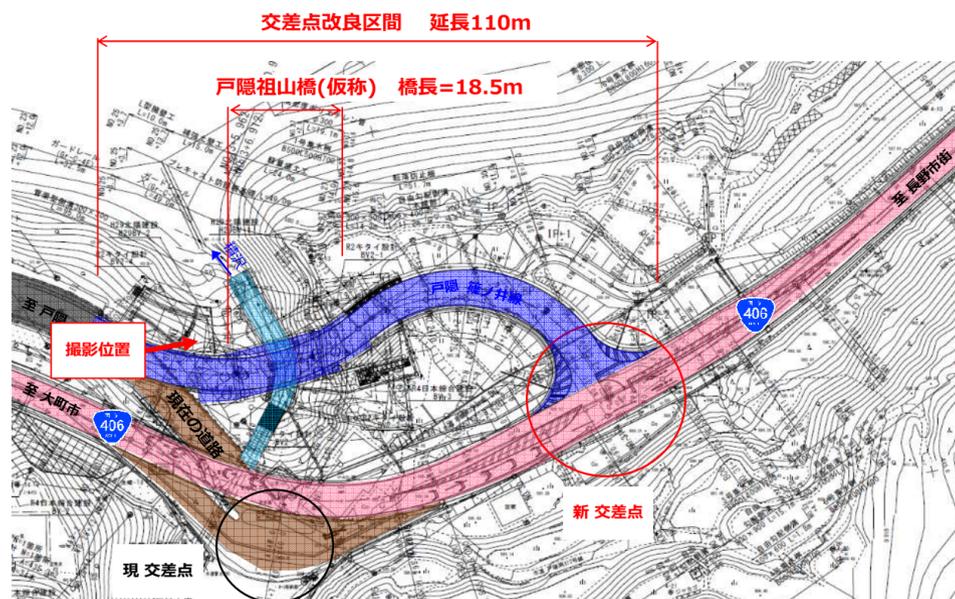
このため、長野建設事務所では道路改良事業を実施しており、平成30年12月には延長約1.2キロメートルの「西組バイパス」が供用されています。

現在、西組バイパスの終点から長野市街地方面で戸隠祖山工区として事業推進しています。

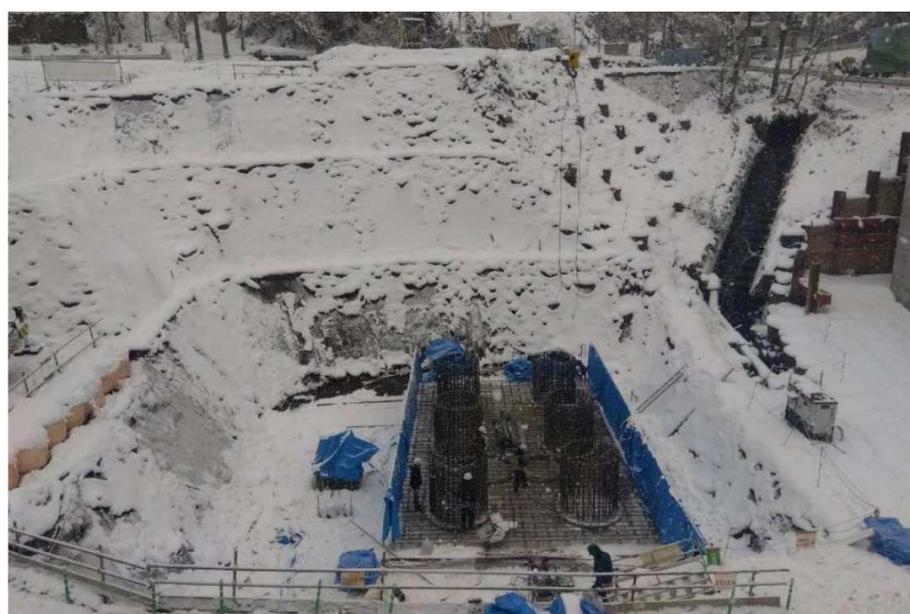
この戸隠祖山工区では、国道406号と主要地方道戸隠篠井線の鋭角交差点を改良するため、交差点改良を行っています。

交差点改良工事では、橋梁架設の他、道路築造工事を実施しています。もともと山林であったところを新たに道路築造するもので、工前後で周辺状況が大きく変化する予定です。

このため、工事の変遷を記録する「タイムラプス画像」をご紹介します。



令和7年1月



年末からの降雪ですっかり冬景色となりました。

厳しい環境の中で工事が進められています。

別方向からは、深礎杭が概成したことが確認できます。

深礎杭から延びる鉄筋は、今後橋台と一体化されます。

令和6年12月



道路基礎部の擁壁が完成。その上部に補強土壁（コンクリートパネルと土砂を利用した盛土）を施工しています

写真では確認できませんが、併行して橋台の基礎杭工を実施しています

令和6年10月



現道と橋梁をつなぐ区間において、道路の基礎となるコンクリート擁壁を施工しています